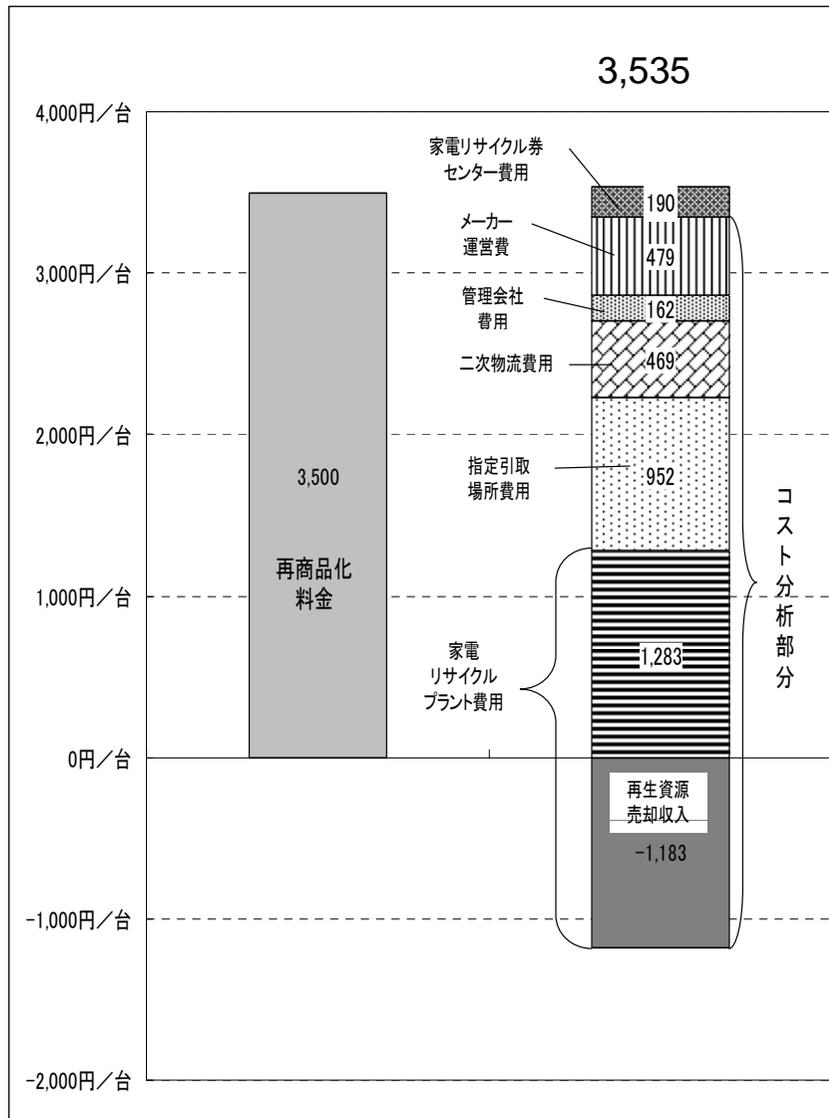
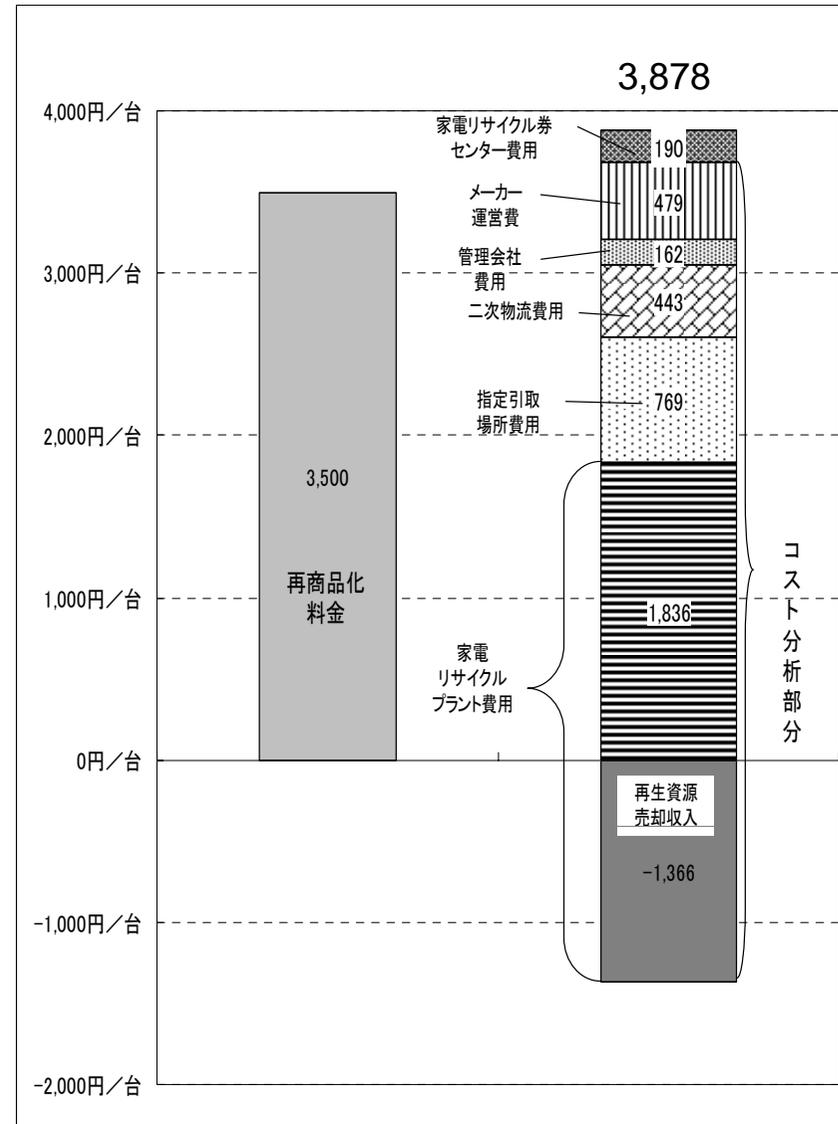


参考3-2 平均的な家電リサイクルシステムにおけるコスト分析 (エアコン)

【既存業者活用型】



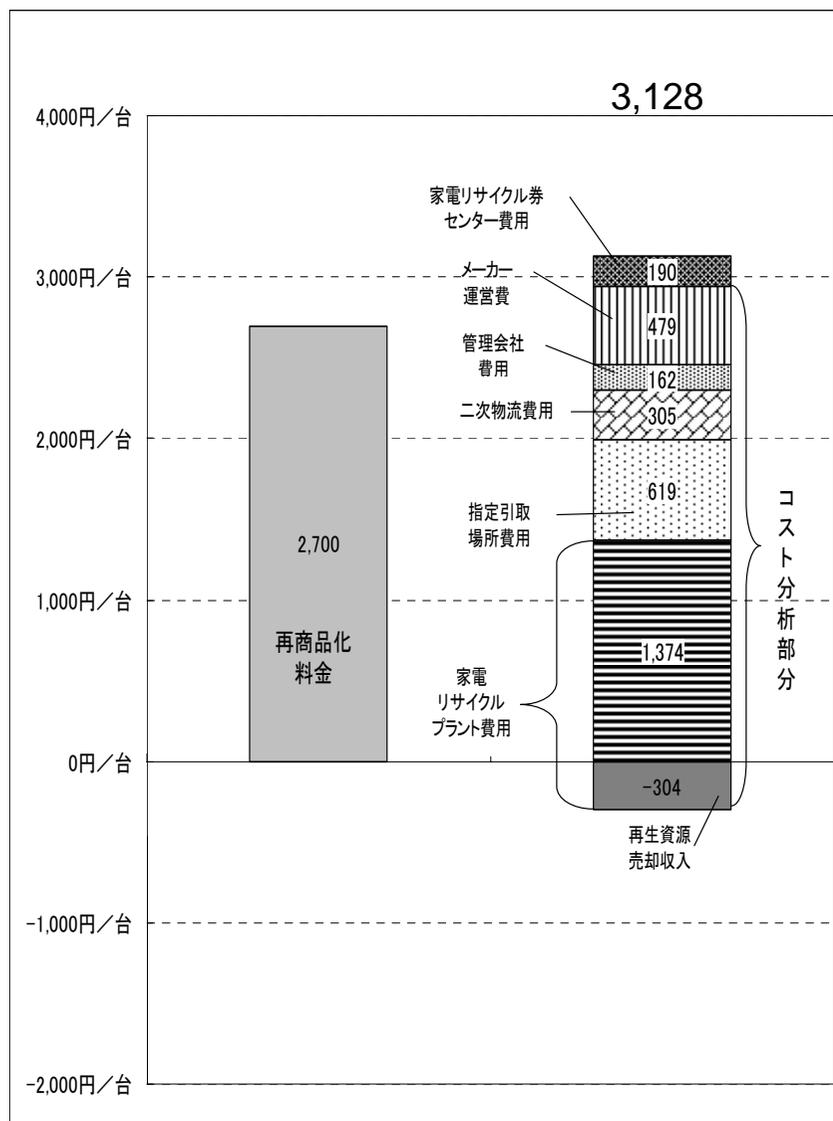
【施設新設型】



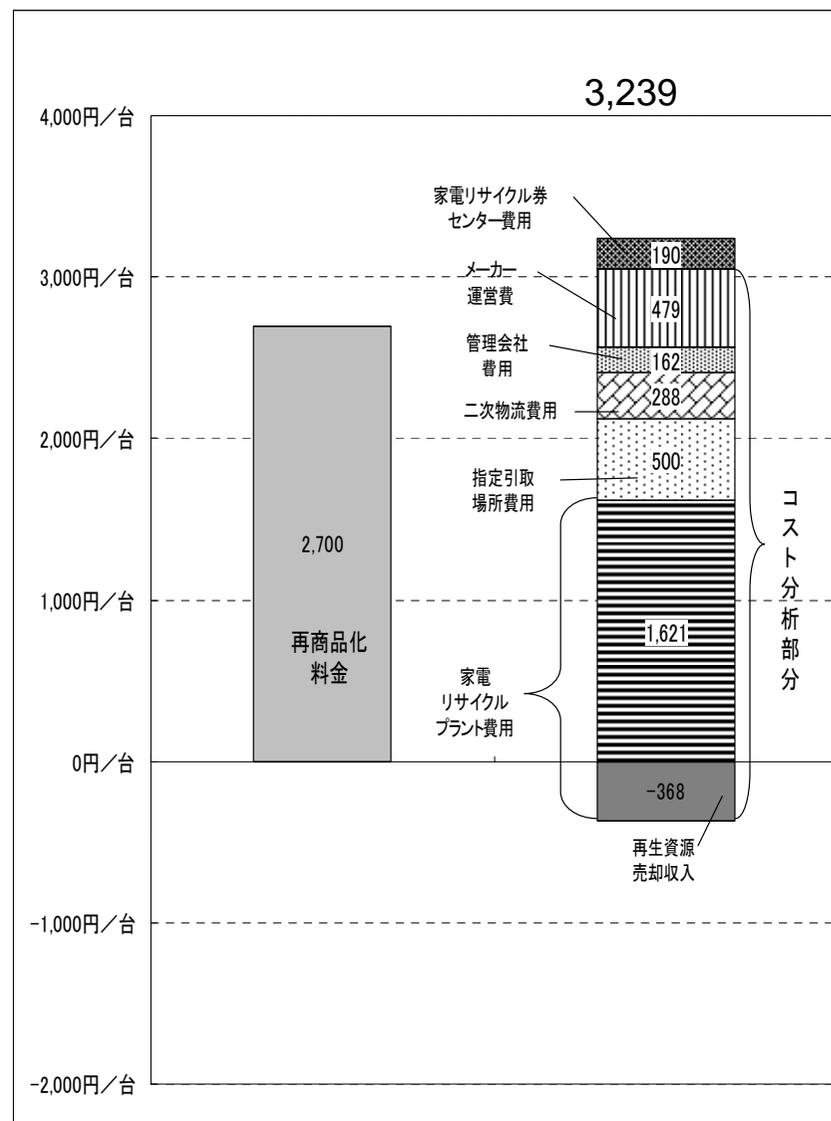
出典：第7回合同会合（平成19年3月6日）事務局資料より作成

参考3-2 平均的な家電リサイクルシステムにおけるコスト分析 (テレビ)

【既存業者活用型】

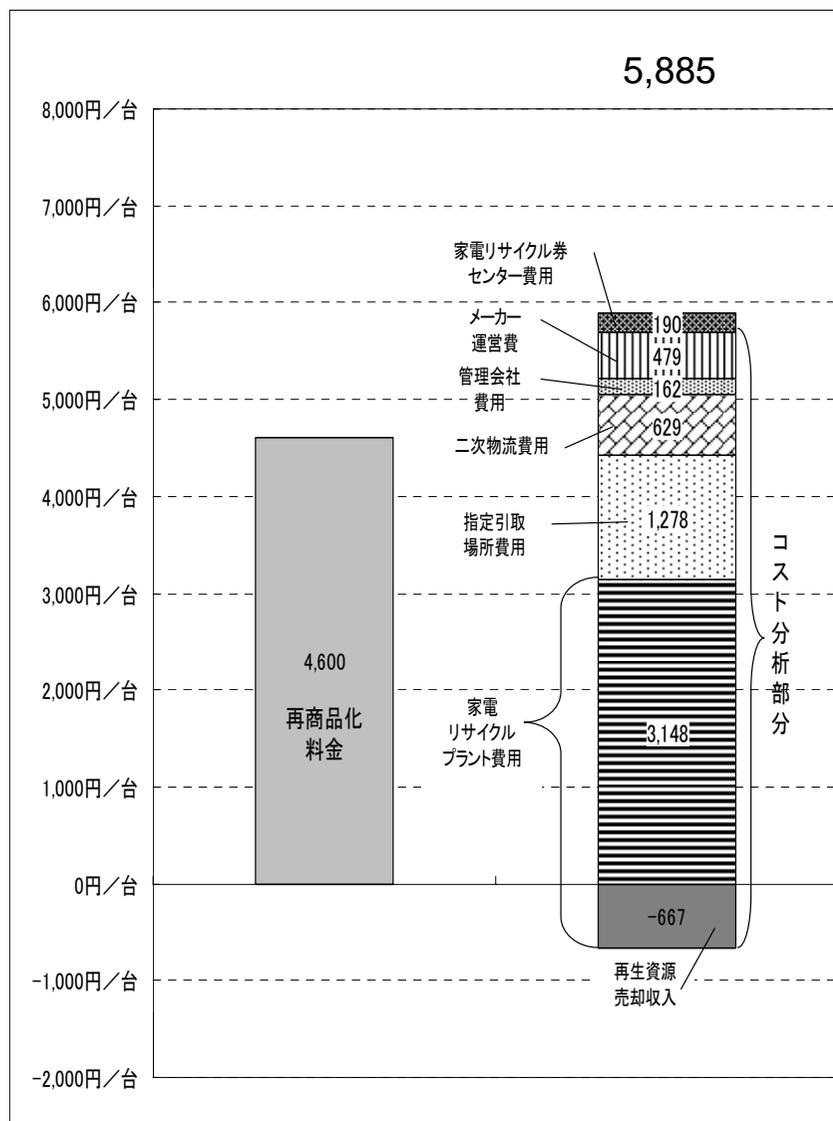


【施設新設型】

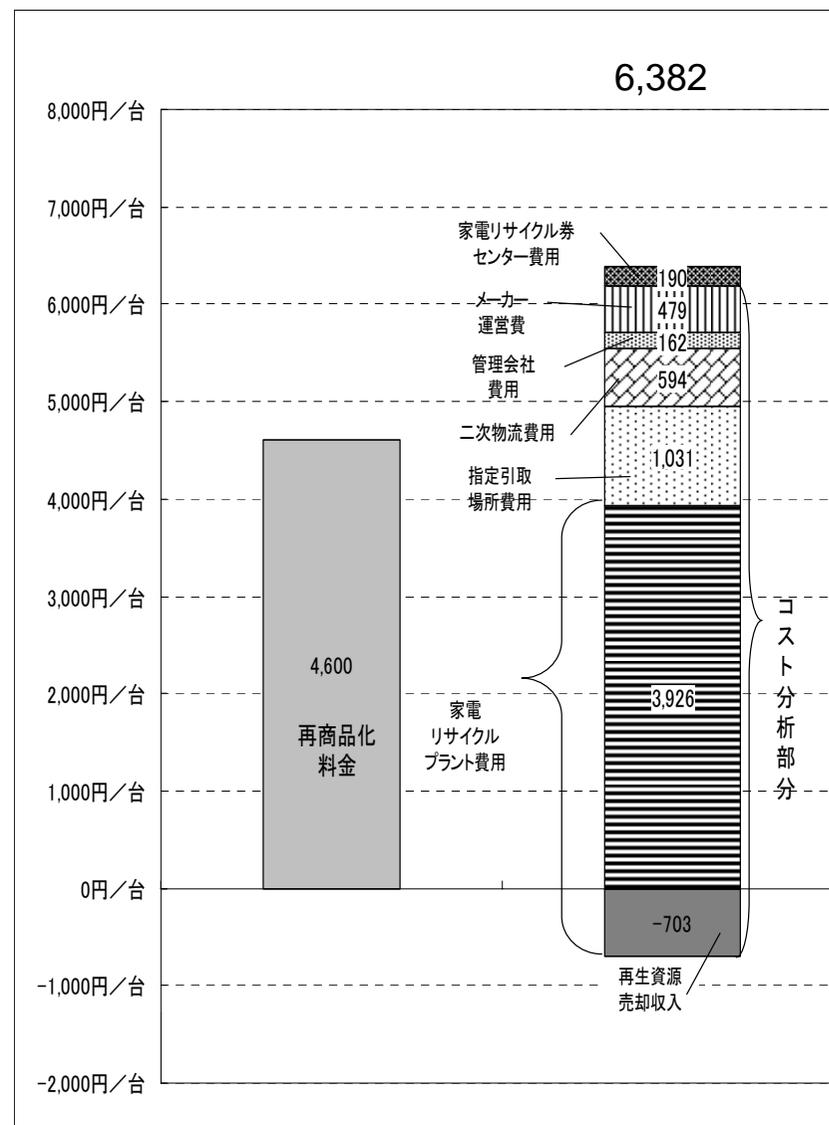


参考 3-2 平均的な家電リサイクルシステムにおけるコスト分析 (冷蔵庫・冷凍庫)

【既存業者活用型】



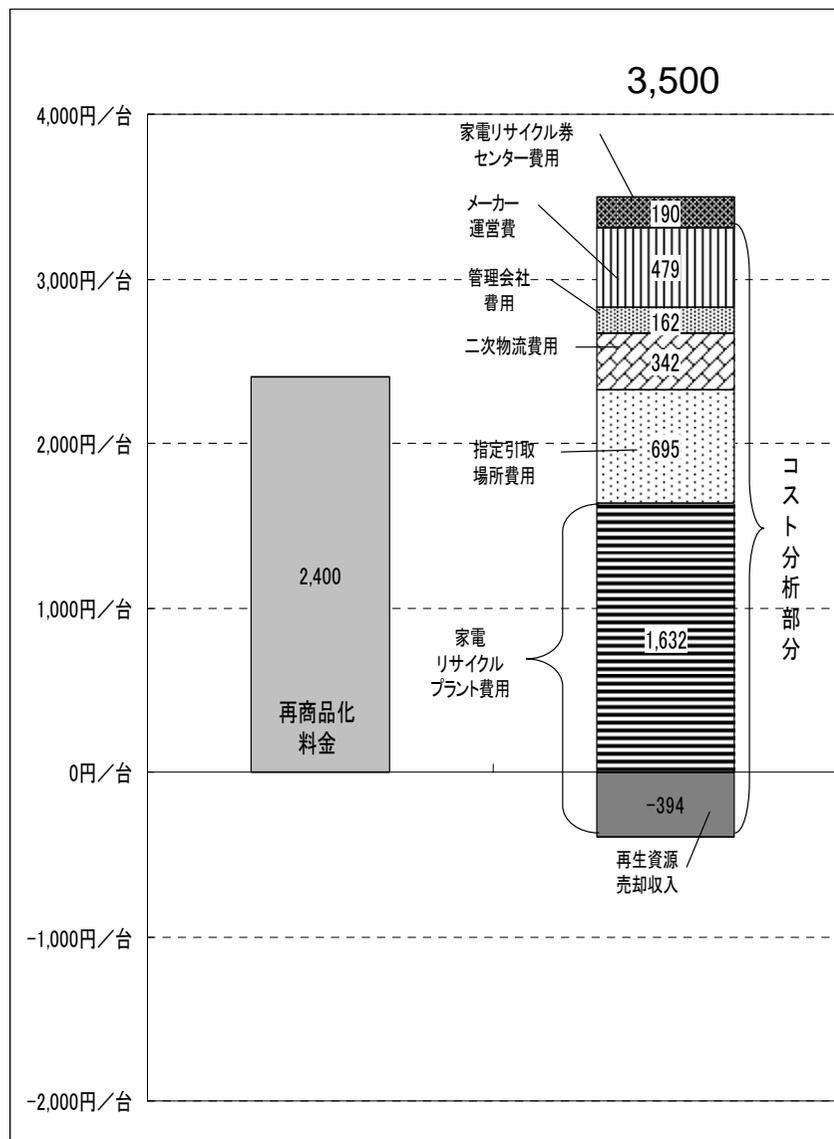
【施設新設型】



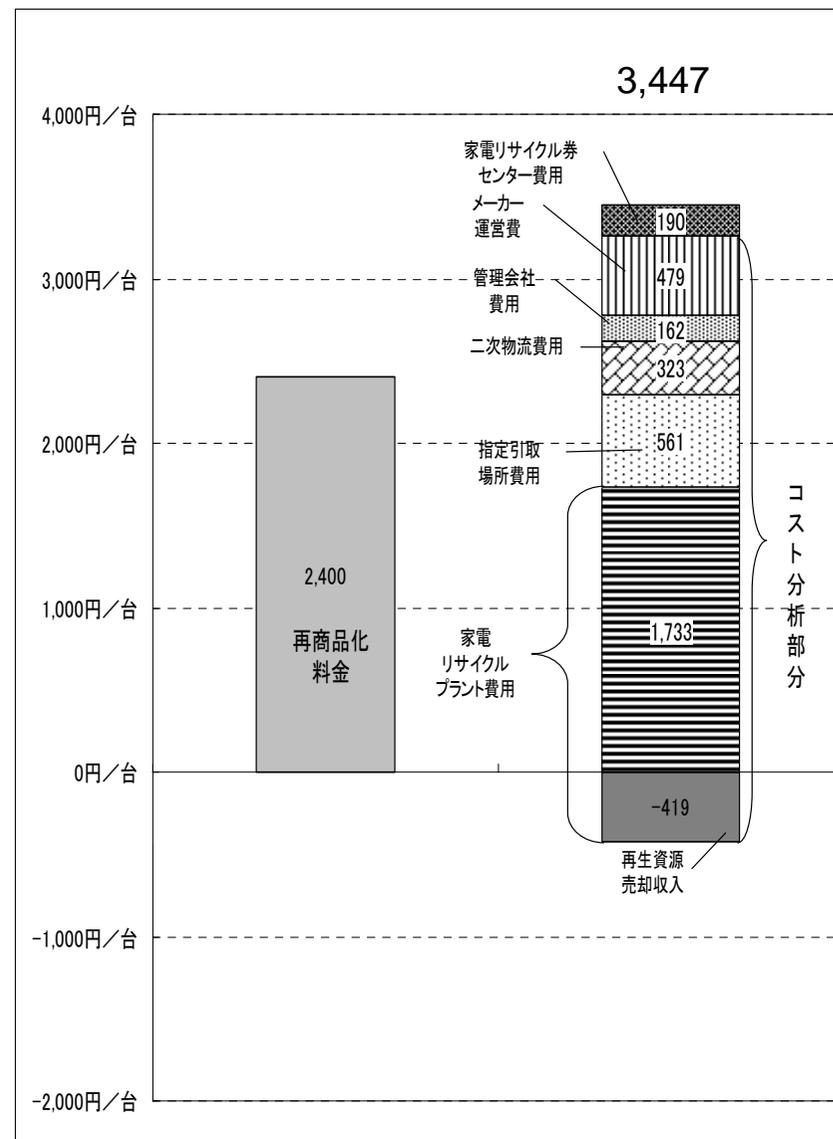
出典：第7回合同会合（平成19年3月6日）事務局資料より作成

参考3-2 平均的な家電リサイクルシステムにおけるコスト分析 (洗濯機)

【既存業者活用型】



【施設新設型】



※前述のコスト分析に関する各費用算出の概略について

■メーカー運営費

- ・回収台数が4品目合計で150万台／年の家電メーカーを想定し、家電メーカーが実施している家電リサイクルシステムの円滑な運営に資するためのリサイクルシステムの企画・維持・運営、リサイクル処理技術の開発などの活動について、40項目に上る具体的活動項目を抽出。その上で、活動費・開発材料費を、平成17年賃金構造基本統計調査等に基づき積算した。

■管理会社

- ・家電リサイクル事業に係る費用の精算、関係者の遵法管理、再商品化等率の管理、委託業者(家電リサイクルプラントや指定引取場所等)との価格交渉・契約手続き・支払業務、事故等への対応等の業務を実施。本コスト分析では、これらの業務の実施に必要な人件費と情報システムの開発・維持管理費用を積算。

■家電リサイクルプラント

- ・搬入された家電4品目を、前処理工程、破碎処理・選別工程を経て、再商品化等を実施。本コスト分析では、以下の2パターンのモデルを設定した。なお、モデル設定にあたっては、家電の受入台数の季節変動を考慮した。

Aグループ: 廃棄物処理業者の既存の破碎処理施設活用型(既存施設活用型) (年間合計処理台数: 30万台)
Bグループ: 家電リサイクル施設新設・前処理工程充実型(施設新設型) (年間合計処理台数: 40万台)

■指定引取場所

- ・指定引取場所では、家電4品目の引取り、保管、二次物流業者への引渡しと、家電リサイクル券の管理、家電リサイクル券センター及び管理会社に対する引取りデータの送信業務等を行う。本試算では、以下の2パターンのモデルを設定した。なお、モデル設定にあたっては、家電の受入台数の季節変動を考慮した。

Aグループ: 既存の廃棄物処理業者活用型、エアコン・テレビをコンテナで保管、冷蔵庫・洗濯機はバラあるいはコンテナで保管(年間取扱台数25千台)
Bグループ: 大手物流業者活用型、家電4品目すべてをコンテナで保管(年間取扱台数37千台)

■二次物流

- ・指定引取場所から家電リサイクルプラントまで家電4品目を輸送する。本コスト分析では、以下の2パターンのモデルを設定した。

Aグループ: 道路貨物運送業者活用型、エアコン・テレビをコンテナ積載で輸送、冷蔵庫・洗濯機はバラ積みあるいはコンテナ積載で輸送
Bグループ: 大手物流業者活用型、家電4品目すべてをコンテナ積載で輸送